

1 国語

＜課題＞

- 特に、思考力・判断力・表現力等に、課題がある。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えて書くことや、文章に対する感想や意見を書いたり伝えたりすることなど、特に「書くこと」に課題がある。
- 登場人物の行動や気持ちなどについての読み取りはできるが、登場人物の相互関係や人物像など、情報と情報を結び付けたり、整理したりして正しく読む力が身に付いていない。
- 言語事項（既習漢字、主語述語、修飾語等）においても、習熟が必要である。

＜特に育成を目指す資質・能力＞

- 語彙を豊かにし、既習漢字を確実に習得させる。
- 文章の構成を考えながら書いたり、感想や自分の考えをまとめたりするなど、主に書くことを中心とした思考力、判断力、表現力等を育てる。
- 読む力の中では、特に、読み取った文章の構造や内容をもとに、精査・解釈する力を伸ばす。

＜指導方法・体制の工夫＞

- 朝学習や授業の帯時間を確保し、漢字の学習を繰り返し行う。
- 授業中に感想や考えを書く学習をできるだけ設定する。また、日記を定期的に継続して書くこと等で、書くことへの抵抗をなくし、書くことに慣れさせる。
- 読む力を付けさせるために、朝読書の時間を確保し、語彙力を増やす。また、音読を継続的に行い、視覚と聴覚の両方からインプットすることで、文章の読解を高める。

<p><b>第1学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを書く学習を増やし、主語述語などに注意して文章を書く力を付ける。「あのねちゃん」を活用し表現力を付ける。</li> </ul>	<p><b>第2学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢字を正しく読んだり書いたりできるように、小ステップで確認をしながら進め、繰り返し復習して習熟させる。</li> <li>○ 日記や作文を書く課題を定期的に出して、書くことへの抵抗感を減らし、自分の考えを表現したり、構成に気を付けて文章を書いたりする力を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>第3学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小テストを繰り返し行い、漢字や言葉の定着を図る。</li> <li>○ 日記や作文の課題を出す際に、テーマなどを指定することで、決められた枠の中でまとまった文章が書けるようにする。</li> <li>○ 文章を読み取る学習では、言葉や表現に着目し、国語辞典をこまめに使用したり、意味や使い方についてその都度確認したりする。</li> </ul>	<p><b>第4学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢字ドリル学習は、毎日の国語の学習時に帯時間をとって継続して取り組み、計画的に小テストを行うことで、定着を図る。</li> <li>○ 日記や作文を書く課題を出し、書くことへの抵抗感を減らす。自由作文やテーマ作文など、書く内容や分量にも変化を加え、適切な文章を書くことができる力を身に付ける。</li> <li>○ 音読「話す聞くスキル」の宿題を通して、読むことへの抵抗力をなくし、文章を読み取る力を身に付くようにする。</li> </ul>
<p><b>第5学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢字学習や意味調べ、視写などに朝学習、授業、家庭学習で取り組み、知識の定着を図る。</li> <li>○ 作文の課題を定期的に出し、日記や調べたことなどについてまとめることで書く力を身に付ける。</li> <li>○ 物語文、説明文の学習において、単元ごとの目標を明確にし、スモールステップで読む力、書く力を高めていく。</li> </ul>	<p><b>第6学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小テストを定期的に行うことで漢字や語句を繰り返し学習する機会を設け、定着を図る。</li> <li>○ 授業や家庭学習で文章を書く課題を、適宜取り入れていく。その際、課題や文章構成などを明確に事前指導し、取り組むことによって書く力が付くようにする。</li> <li>○ 授業の中で、「話す聞くスキル」を使用し、読むことへの抵抗をなくし、文章を読み取る力が身に付くようにする。</li> </ul>

## 2 社会

### <課題>

- 学力調査において、観点別に見ると、思考力・判断力・表現力等の向上に課題がある。
- 各学年、内容によって理解の差があり、既習事項が定着していない内容がある。

### <特に育成を目指す資質・能力>

- 資料を読み取ったことをもとに考え、課題に対して自分の考えを表現する力を育てる。
- 既習事項の復習をし、基礎的な知識の理解を深める。

### <指導方法・体制の工夫>

- 意図的に既習事項を絡めて学習する時間を取り、基礎的・基本的な知識の継続的な定着を図る。
- 資料の読み取り方について、事実の読み取りに加え、自分の考えを表現する学習活動を多く取り入れる。
- 児童にとって身近な題材から資料を準備したり、体験活動を多く取り入れたりと興味関心を高める。

### 第3学年

- 資料を読み取る時の視点を明確にすることで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- 単元の学習後に新聞やリーフレットを書くなどして資料を活用して表現したり、学習したことを確認したりする習慣を身に付けさせる。
- 見学やゲストティーチャーとの学習など、体験活動をできるだけ多く取り入れて、興味関心を高めるとともに、実感を伴った理解ができるような指導を工夫する。

### 第4学年

- 学習問題を解決するために、必要な情報を資料から探し、抜き出す活動を設定する。意図的に前学年の既習事項を絡めて学習を進め、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- 資料を読み取る活動、まとめる活動、伝え合う活動という流れを意識した学習を意図的に行い、学習したことを自分事として考え、表現する習慣を身に付けさせる。
- 動画教材やICT教材を有効活用し、見学等ができない内容に関しても、実感を伴った理解ができるよう、指導の工夫を図る。

### 第5学年

- 資料(地図、表やグラフ等)の読み取り方を指導するとともに、既習事項の復習をする時間を設け、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- 学習した社会的事象が自分の生活と密接に結びついていることに気付かせ、関連させて考える学習活動を意図的・継続的に行い、思考力・判断力・表現力を育てる。
- 調べ学習をする前に、予想をしたり話し合わせたりすることで、確かめたい、知りたいという意欲を高める。

### 第6学年

- 普段から地図帳や資料集を使用して、資料を活用する能力を高める。既習事項を振り返る時間を授業に取り入れ、知識の継続的な定着を図る。
- ミニホワイトボード等を活用して、思考を共有しやすくし、互いの考えを深められるようにする。
- 資料(年表やグラフ等)の読み取り方を指導するとともに、それを児童が主体的に活用できるようにしていく。そのために、複数の資料を比較したり組み合わせたりして考える活動を継続的に行っていく。

### 3 算数

#### <課題>

- 記述式の問題では、無回答や誤答などが多く、考え方や解き方を説明する力に課題がある。
- 基礎的・基本的な計算力が身に付いていない。
- 作図の仕方や、面積や体積の求積方法が定着していない。

#### <特に育成を目指す資質・能力>

- 学年に応じた、整数、分数、小数の基礎的な計算力、作図する能力を重点的に身に付けさせる。
- 解き方や考え方を言葉や文章、図を使って説明する思考力・判断力・表現力等を育てる。
- 課題に取り組む際に、「分からない」ではなく、解くために、何か使えないかと考える姿勢や態度を身に付けさせる。

#### <指導方法・体制の工夫>

- 少人数指導を生かして、作図などが苦手な児童に手厚く指導できるようにする。また、朝学習で、計算力が身に付くように、eライブラリやベーシックドリルを活用して四則演算の問題に繰り返し取り組ませたり、習熟が不十分な児童に対して学力向上推進ティーチャーを活用して個別指導を行ったりして、計算力の向上を目指す。
- 授業の中で、課題の解決方法を考える時間と発表する時間を設定するようにしていく。その際に使えるように、図や表現する言葉なども伝え指導していく。
- 習熟度別指導を生かして、自分の考えを文章や言葉等で表現しやすい環境を作り、表現する機会を増やすことで、主体的に考えようとする態度を育成していく。

<p><b>第1学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体物を使った算数的な学習活動を多く行い、基本的な学習が理解できるようにする。また、問題解決学習を取り入れ、児童に思考力・判断力・表現力等が付く授業を行う。</li> <li>○ 朝学習において、繰り返し計算問題を解かせたり、学力向上推進ティーチャーと連携して個別指導を行ったりする。</li> </ul>	<p><b>第2学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図を描いたり、かさを実際に測ったりする、体験的な学習を取り入れる。また、自分の考えを文章や言葉、図などで表す学習活動を行う。</li> <li>○ 基礎的な知識理解が定着するように、朝学習において繰り返し計算問題に取り組ませる。また、学力向上推進ティーチャーと連携を図りながら、必要に応じて個別指導を行う。</li> </ul>
<p><b>第3学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業では、自分の考えを文章や言葉、図などで表す学習活動を繰り返し行い、思考力・判断力・表現力等を高めていく。</li> <li>○ 朝学習や授業のはじめの5分間を使って、基礎的な計算問題に取り組ませ、基礎的な知識理解の定着を図る。また、学力向上推進ティーチャーと連携し、休み時間や放課後の時間に個別指導を行う。</li> </ul>	<p><b>第4学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図形に関しては、角度の測り方や図形の特徴を使っての作図などの理解について、実感を伴って理解することができるよう、繰り返し取り組ませたり、体験的な学習を取り入れたりする。</li> <li>○ 朝学習の時間に、様々な内容に計画的に取り組めるよう、算数少人数担当や学力向上推進ティーチャーと連携を図って教材の準備をする。また、折れ線グラフの読み取りの学習では、補充プリント教材やドリル教材を活用して、定着を図る。</li> </ul>
<p><b>第5学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数直線のかき方や見方を計画的に習得させる。1にあたる大きさを意識し、数直線を使って割合や単位量当たりの大きさが説明できるようにしていく。</li> <li>○ 補充プリント教材やドリル教材を活用して、小数や分数を含めた四則演算の定着を図る。朝学習の時間に、計画的に取り組めるよう、算数少人数担当や学力向上推進ティーチャーと連携を図って教材の準備をする。</li> </ul>	<p><b>第6学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを、数直線などの図や式、文章で表現する時間を確保し、友達と考えを交流する場を多く設けて思考力や表現力の向上を図る。</li> <li>○ 補充プリント教材やドリル教材を活用して、既習図形の公式や四則演算の定着を図る。朝学習の時間に、計画的に取り組めるよう、算数少人数担当や学力向上推進ティーチャーと連携を図って教材の準備をする。</li> </ul>

## 4 理科

### <課題>

- 既習事項の定着が不十分で、知識を活用して予想することが苦手である。
- 自分で予想したり、観察や実験で得た結果を整理して考察したりするなど、科学的事象について説明、表現する力が不十分である。

### <特に育成を目指す資質・能力>

- 基礎的な知識及び技能の定着を図る。
- 科学的事象について表現する力を育てる。

### <指導方法・体制の工夫>

- 自然事象から課題を見出し、見通しをもって問題解決を行うことで、学習に対する主体性を育てる。
- 観察や実験をするときに、問題設定—予想—観察・実験—結果の整理—考察・結論の問題解決のプロセスを確実にを行い、科学的な見方・考え方を育てる。
- 予想、考察やまとめの段階で児童が考えを表現する活動を大切に、根拠をもって自分の考えを表現する力を養う。

### 第3学年

- 自然事象から課題を見出す活動を工夫し、主体的に問題解決に取り組めるようにする。
- 観察や実験においては、児童の経験などから予想したり、見通しをもたせたりすることで、科学的な見方や考え方を育てる。
- まとめや観察の仕方を丁寧に繰り返し指導し、理由を付けて自分の言葉で表現する力を身に付けさせる。

### 第4学年

- 自然事象から課題を見出す活動を工夫し、主知的に問題解決しようとする態度を育てる。
- 一つの実験や観察について、問題設定から考察・結論までの問題解決のプロセスを丁寧に行い、科学的な見方や考え方を伸ばす。
- まとめや観察の仕方を丁寧に指導し、予想や考察をする際には、根拠を基に自分の言葉で表現できるようにする。

### 第5学年

- 科学的な思考を育てるために、実験方法、計画を児童たちに考えさせ、理由を説明させていく。また、ただ実験を行うのではなく、その実験から何が分かるか見通しをもたせる。
- 児童の興味を引き出すような問題提示を行い、一つの実験や観察について、問題設定から考察、結論までの問題解決的な学習のプロセスを丁寧に行い、科学的な見方や考え方を伸ばす。その際、条件制御が身に付くように指導する。
- ICT機器を活用し、1人1台端末を使って記録したり、自分の考えを表現したりできるようにする。

### 第6学年

- 問題を解決するための実験方法について班で話し合い、自分たちで考えた方法で実験し、結果を導き出すことで、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 問題設定から考察、結論までの問題解決のプロセスを丁寧に行い、科学的な見方や考え方を伸ばす。その際、自分の考えをより科学的なものに変容させるよう指導する。
- 基本的な内容を確認しながら実験や観察を行う。実験を行う際には予想を立てさせ、見通しをもって学習に取り組めるようにし、結果に対して自分の考えを表現できるようにする。